

# 新型コロナワクチンの追加接種は必要か？

理事／環境脳神経科学情報センター 木村-黒田純子

ウイルスの基礎研究に従事した経験から、JEPA ニュースに新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）の記事（123-5、127-9、131、136号）を個人の責任で書いてきた。2021年、新型コロナパンデミック以降、新型コロナワクチンが開発、接種が推奨され、一定の効果を上げたと報告されている。しかし、最近流行した感染性の高いオミクロン株では、ワクチン接種で重症化を抑えるといわれるものの、感染防御効果は低かった。2023年3月、厚労省は、抗体検査から日本人の約4割が新型コロナに感染済みと発表した。日本では新型コロナ感染は、5月に2類から5類へ変更が決まり、マスクの着用も緩くなった。

一方、新型コロナについて、膨大な学術論文が出されているが、いまだにわからないことが多い。気がかりなのはワクチン接種後の副反応と感染後の後遺症だ。ワクチンによる副反応では、心疾患や免疫異常などが報告されている。感染後の後遺症では、認知機能や集中力の低下、継続する倦怠感などで、仕事ができない人もいる。ワクチンの危険性だけを強調する情報もあるが、新型コロナは脳、血管、心臓、肺などの組織で持続感染することがあり、感染を甘くみるのも問題である。また今後、重症化を招く新型コロナ変異株が出現する可能性もあり、個々の基本的な感染予防や免疫力の強化は必要だ。

2023年3月7日、政府は新型コロナワクチンを高齢者

や高リスクの人には年2回、子どもを含む一般には年1回の接種を推奨した。3月28日、WHOは高リスク対象者には半年か1年毎の接種を、子どもや健常人には必ずしも接種をする必要がないと発表した。

新型コロナワクチン接種による副反応は、インフルエンザワクチンより明らかに強い。高リスク対象者へのワクチン追加接種は有効だとしても、重症化が少ない健常人や子どもへの接種の安易な推奨には疑問が残る。

厚労省の3月10日の発表では、接種後の死亡例は2001例だが、ほとんどが検証されずに、「ワクチンとの因果関係が評価できない」とされているのも問題だ。また頻繁な追加接種は、以下のようないくつかのリスクがある。今後のワクチン接種は、個々のケースを十分鑑み考慮されたい。

①新型コロナワクチン接種の副反応には、心筋炎、心膜炎、血栓症、自己免疫疾患、免疫抑制など、死亡例をふくむ重篤な症例が報告されている。

②ワクチンの標的であるスパイク蛋白は、それ自体が持つ毒性から起こる副反応や、抗体依存性感染増強を起こす抗体を産生する可能性がある。

③3、4ヶ月や半年ごとの頻繁なワクチン接種は、ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こす可能性が高くなる。

以上は筆者の意見であり、JEPA の総意ではない。